

(別紙1)

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業 教育・研究活動事業実績報告書

教育・研究活動名	災害時要配慮者に関する防災支援・交流プロジェクト		
申請大学・高校等名	大学及び高校等名	関西大学	
	活動グループ名	近藤誠司研究室	参加学生等人数 24人
指導責任者名及び連絡先	学部・学科等名称	社会安全学部・安全マネジメント学科	
	責任者氏名	近藤誠司	連絡先電話番号
	E-mail		
協働する市民活動団体及び代表者名	団体名	尼崎市難病患者団体連絡協議会	
	代表者氏名	小山昇孝(事務局長)	連絡先電話番号
	E-mail		
教育・研究活動目標	尼崎市は南海トラフ巨大地震等が発生した場合、市域で甚大な被害が発生することが予想される。また大型台風による高潮災害リスクも高い地勢にある。そうしたなかにおいて、難病患者・障害児者、高齢者などの要配慮者は、防災対策を促進することに苦慮している。そこで本プロジェクトでは、災害時配慮者との交流を通して、学生が実態調査をおこない、研究室で支援手法に関する課題の検討・分析をおこなう。		
活動内容及び実績、評価	<p>(活動内容及び実績)</p> <p>【1】 難病患者・障害者の実態調査委の実施 ・「尼崎市手をつなぐ育成会」と協働して、会員の全世帯を対象とした防災実態調査を実施した。大学生が分析をおこない、卒業論文にまとめることができた。この論文を発表した学生は、学部内で優秀発表者賞を受賞している。 ・ところで、育成会員の皆様に当該調査結果をフィードバックすることを企画していた交流会は、コロナ禍によって残念ながら中止・延期を余儀なくされた。現時点では、次年度2021年7月3日に実施する予定である。</p> <p>【2】 情報共有を図るための取り組み(1) ・2020年11月5日、「立花ひかり学級」防災講演会、2021年3月8日、「インクルーシブ講座」(立花地域課主催)を、それぞれ実施した。ここでは、学生が調査した成果を盛り込んだ内容をふまえて講演をおこなった。ただし、コロナ対策のため、学生たちは当日不参加となった。</p> <p>【3】 情報共有を図るための取り組み(2) ・コミュニティFM放送「FMあまがさき」にて、学生が放送原稿を書き、学生が出演する防災福祉ラジオ「防災アイアイ」を毎週木曜日、継続的に実施してきた。コロナ禍においても1度も休止することなく取り組みを続け、本年度秋にはシリーズ通算100回を突破することができた。この成果が高く評価され、2021年3月には、「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)」で教育機関部門・金賞を受賞した。なお、「関西大学・学長奨励表彰」も受賞し、さらに「ぼうさい甲子園」においても7年連続で入賞することができた。</p>		

【4】あらたな情報発信(1)

・コロナ禍において、学生の移動を伴うフィールドワークを自粛する期間が長く続くことになった。そこで、活動の計画内容を一部変更して自宅で過ごす時間が増えた児童を支援するために、大学生が動画教材を制作してオープン・プラットフォームで発信する取り組みを年度途中からスタートした。

・この取り組みでは、尼崎市教育委員会事務局学校教育部幼稚園・高校企画推進担当と協働して、未就学児向けの動画を制作し、尼崎市の公式 YouTube チャンネルや CATV のベイ・コミュニケーションズからも発信することができた。

【5】あらたな情報発信(2)

・毎日新聞社主催「ぼうさい甲子園グランプリ受賞シンポジウム」を 8 月 28 日に大阪梅田にて開催。尼崎市における防災福祉プロジェクトの成果を大学生がスピーチ。新聞紙面等でも発信していただいた。

【6】次年度計画に関して

・キャンパスがある大阪府高槻市では、高齢者介護施設協議会防災対策部会と協働して、防災福祉活動を推進している。こうした取り組みの成果を、尼崎市においても還元していく道を探っていきたい。

・また、「FM あまがさき」の防災福祉ラジオの放送を、さらに継続・進化させていきたい。東日本大震災以降、尼崎市が連携している宮城県気仙沼市と、ラジオを通じた交流を図っていけないか模索していきたい。

(評価)

・プロジェクトに参加した学生たちは、「福祉」に対する学びが深まり、特に老年学における「フレイル」の観点から、「インクルーシブ防災」のありかたを再検討する視座を持つことができた。この点は、次年度以降の取り組みにも生かしていけるものと考えている。

・想定していた活動のうち、対面で交流をおこなう取り組みは、残念ながらコロナ禍の影響によって自粛・断念せざるをえなかった。しかしそのかわりに、オンラインを活用した取り組み(オープン・プラットフォームの構築)は、あらたな活動基盤としてのポテンシャルを有するものとなった。尼崎市民のみなさまにも利活用していただけるように、今後より充実したメディアとして育てていけるとよいだろう。なお、FM あまがさきの「防災福祉ラジオ」には、リピート放送やオンデマンド放送等のサービスが無いことから、現時点では当該プラットフォームからの情報発信が域内・域外のリスナーに対する重要なサービスとなっている。

・当該プロジェクトの卒業生が、尼崎市役所に入庁して災害対策課で活躍しており、当該事業においても協働する機会を得ている。そのため、現役のゼミ生たちは、公務員として地域に奉仕することの意義を身近に知ることができた。本年度は、近隣の県や基礎自治体に入庁する卒業生を複数輩出することができた。

・防災と福祉という分野においては、客観的に到達度を測ることが難しい。取り組みを継続するなかで、しっかりとした成果物を生み出したり、防災力の向上に寄与するアクションを創出できるよう、今後も検討を重ねていく必要があるものとする。

※ 報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします。